第２章　学級づくり・人間関係づくりの考え方

１　なぜ学級づくり・人間関係づくりが必要なのか

近年、少子化、過疎化により家の近所に年の近い遊び友だちが少なくなり、子どもたちが群れて遊んでいる姿を見ることが少なくなりました。また、テレビ、ゲーム、パソコンが普及したことで、家族や友だちと一緒の空間にいても相手と顔を向き合わせる機会が少なくなってきています。

このような社会やテクノロジーの変化に伴って、子どもたちは直接に他者と関わりながら集団に所属する機会が少なくなってきています。昨今課題となっている不登校やいじめといった集団への不適応行動は、個あるいは集団で他者と関わる経験の不足が一因となっているケースもあります。

このような現代を生きる子どもたちが**社会に出て自立して生活**できる力を身につけるためには、学校教育の期間に、学級で集団に所属する経験を通してより良い**人間関係**を築く中で、“社会性”を身につけられるように指導・支援することが求められています。

○社会性とは

社会に出て自立した生活を送るために身につけておきたいことは、自分の力を生かして他者のために行動する意欲や態度です。自分の力を発揮して他者のために生かそうとすることを「**自己実現の欲求**」といいます。この欲求を持つことができた子どもは、自分を律し困難なことに立ち向かってでもなりたい自分になるための努力をすることができるようになります。様々な学習や活動を通して、子どもたちが自己実現の欲求を持てるようにすることが学校教育の期間の目標となります。

また、社会生活を円滑に送るには、自分以外の他者と気持ちの良い関係を持つことも必要です。社会性には「他者と良好な関係（**リレーション**）を築く力」「良好な関係を維持するために規範（**ルール**）を守る（つくる）力」も必要であるといえます。

○社会性を育成する教育とは

子どもたちが社会性を身につけるためには、集団の**段階的な発達過程**に基づいた活動を**段階的、計画的**に実施することが必要です。

まず、学級集団の**実態把握**（観察、面接、アンケート）に努めます。次に、集団がどの発達段階にあるのかを判断し、段階に応じた活動を準備することが必要です。

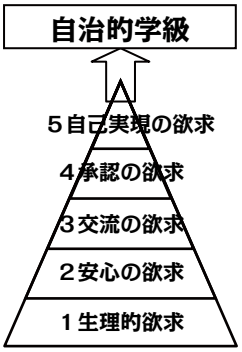
実態把握が不十分で場当たり的になると、規律が乱れ、傷つけ合いが起こりやすくなります。子どもたちの負担を増大させ、時には不適応の原因になることもあります。

○学級集団はどのように発達していくのか

Ａ．マズローの「**欲求発達階層説**」によると、集団の段階的発達を分かりやすく説明することができます。これは、自己実現の欲求を抱くまでには、いくつかの欲求が段階的に満たされる必要があるという理論です。

集団の発達とは、一人一人の子どもが集団の中で自分の欲求を発達させていくことで、集団も高まることをいいます。教師が段階的、計画的に欲求を満たしていくよう指導・支援することで学級を経営していきます。

次からはこの理論を活用して、各段階での教師の関わり方、集団が身につけていく社会性、それに応じたＱ-Ｕのプロット図について説明します。



集団の欲求発達の階層

参照　「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U」（１９９５）河村茂雄著　図書文化社

2　学級集団の欲求段階に応じた指導

（１）生理的欲求を満たす指導とは

生理的欲求とは、食欲、排泄欲等、人間が生命を維持するために必要な基本的な欲求です。おなかが減った、疲れた、喉が乾いたといった形で表現されます。

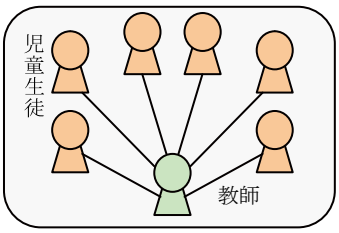
≪欲求を満たす教師の関わり≫
- 水分をとり、トイレに行き、心身ともに休息できる**休憩時間の確保**
- ゆっくりとしっかり噛んで味わいながら食事ができる**給食時間の配分**
- 寒暖、衛生、美化に配慮した**教室環境の整備**

≪欲求が満たされないと・・・≫
- 生理的欲求が満たされないとは、休憩がない、トイレにいけない、寒くて凍えるなどの状況です。
- 生命にかかわる身体的な危機を感じるため、教師に強く抵抗するか怯えとして表現されます。
- 身体の安全を守るために配慮が必要な欲求です。

（２）安心の欲求を満たす指導とは

安心の欲求とは、家庭なら親に守ってもらいたい、学校なら学級担任との信頼関係をもちたいという欲求です。「今年の担任の先生は優しい先生がいいな」というつぶやきはこの欲求の現れです。

≪欲求を満たす教師の関わり≫
- 子どもの存在を認めるために、小さなことでも**よい点やよい能力をほめる。**
- 子どもが**努力したことや成長したことを認める。**
- 良いことは良い、悪いことは悪いという教師の価値観を示す。



≪集団の規模≫
- 教師と個々の子どもとの**１対１**の関係

≪欲求が満たされないと・・・≫
- 安心の欲求が満たされない状況とは、子どもの努力に気付かない、求める子どもの像が高く「まだまだがんばりなさい」という励ましが多い、子どもの不適切な行動を容認してしまうなどの状況です。
- 教師から認められることが少なかったり不適切な行動が見過ごされたりすると、子どもは教師に失望感を持ちます。それは教師への不信感に変わりやすく、指示や指導がとどきにくくなります。

≪この段階における社会性の形成、Q-Uの型　①≫

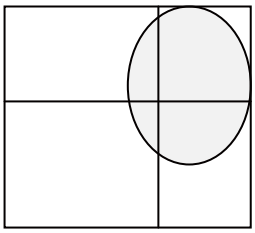
◆社会性の形成

生理的欲求と安心の欲求が満たされると、教師との間に信頼関係（外発的リレーション）が形成され教師の価値観（他律的ルール）を取り込もうとします。

外部からの働きかけ（教師）によって形成されるリレーションとルールです。社会性を学ぶ学齢期に教師という大人の手本を通して“望ましい社会性”を知ることは自立へ向かうための大切な力となります。教師は手本であることを意識し、常に自分の振る舞いを見直しましょう。

◆Q-Uの型

生理的欲求と安心の欲求が満たされ、教師との間にリレーションとルールが形成されると、Q-Uのプロット図は「高いたて型」（**図①**）になりやすいといわれます。高いたて型のクラスは、授業規律が整って他者の発言を受け入れる雰囲気があるなどの様子が見られます。

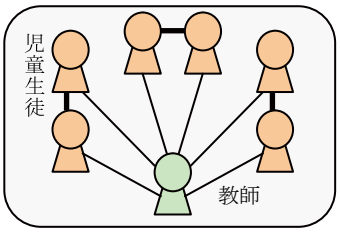


図①　高いたて型

（３）交流の欲求を満たす指導とは

交流の欲求とは、他者と安心して生活したいという欲求です。周囲の級友と楽しく過ごしたいという形で現れます。４月に仲良しグループをつくろうとするのはこの欲求の現れです。グループが固定化しないよう、多くの級友と交流できる活動を設けましょう。

≪欲求を満たす教師の関わり≫
・**楽しい感情を交流**できるように、ゲームや遊びの活動を取り入れる。
・**互いに知り合える**ように個人についての情報を交換する活動（自己紹介）を増やす。
・**ペア活動を基本**とし、**ローテーション**で多くのペア経験ができるようにする。



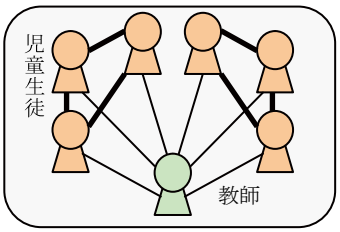
≪集団の規模≫
・教師と子どもの信頼関係を軸として、**２人組**のペア活動が中心

≪欲求が満たされないと・・・≫
・特定の親しい友人以外としか関わろうとせず、グループ化が進みます。
・他者への警戒心がなくならないので攻撃的になり、いさかいやトラブルの原因が増えます。
・気の弱い子は、発表の時に周囲をうかがい、声が小さくなります。

（４）承認の欲求を満たす指導とは

承認の欲求は、集団内で自分が必要とされる存在かどうか確認したい欲求です。周囲の級友から認められたい形で現れます。自分に注目を集めたい言動が見られる時は、この欲求が満たされていないサインと捉えることができます。

≪欲求を満たす教師の関わり≫
・性格や得意なことなど子どもの特徴を**互いに認め合う**活動を行う。
・学級集団の役割（係・当番）を遂行したことを**互いに感謝し合う**活動を行う。
・認め合いは日々の活動を一緒に行い、互いの行動をよく見ている生活班等で実施する。



≪集団の規模≫
・生活班を中心とした**小グループ**が中心

≪欲求が満たされないと・・・≫
・個々の能力の差により意欲の差ができ、「やっても意味がない」「どうせできないから…」など意欲の低下がみられます。
・学級全体の意欲が低下し、活動の盛り上がりに欠け、教師が指示しないと動かないなど自主性が低下します。

≪この段階における社会性の形成、Q-Uの型　②≫

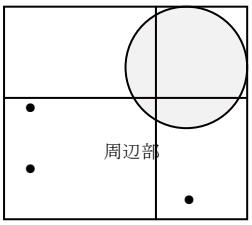
◆社会性の形成

交流の欲求と承認の欲求が満たされると、子ども同士が互いに信頼し合う（内発的リレーション）ようになり、学級に所属することに心地よさを感じるようになります。そして、心地よい学級の和を維持するために自ら意識して集団の規範（自律的ルール）を守るようになります。

子どもが自ら望ましい人間関係を築こうとする態度や資質が形成されつつある段階と捉えることができます。

◆Q-Uの型

交流の欲求と承認の欲求が満たされ、子ども同士の間にリレーションとルールが形成されると、学級には互いに認め合い支え合う親和的な雰囲気が見られるようになります。プロット図は「右上型」（**図②**）としてよく表れます。一方で、学級の雰囲気に乗り切れず、周辺部にプロットされている子どもには個別に配慮することが必要です。

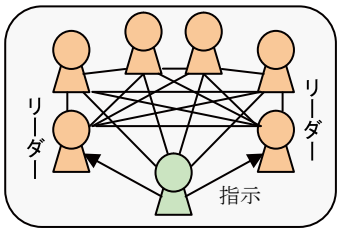


図②　右上型

（５）自己実現の欲求を満たす指導とは

自己実現の欲求とは、所属している集団内で自分の力を活用したいという欲求です。周囲の級友のために何かしたい、みんなと協力したいという形で現れます。

≪欲求を満たす教師の関わり≫
- 行事や日々の生活などこれから向かう活動について集団の**目標を共有**する。
- 共通の目標を達成するため、各自**役割を実行**し、その結果、目標が達成できたと感じさせる。
- 子どもたちが役割を実行するための時間、場所、物品を準備するにとどめ、**最小限に**関わる。



≪集団の規模≫
- 行事のための**特別なグループや学級**

≪欲求が満たされないと・・・≫
- いつまでも教師の指示や指導に頼り、自分たちで解決しようとする自治への意欲をもちにくくなります。
  ⇒順位が付く行事などは結果が思わしくなくても、取組の過程で各自が役割を果たしたことを評価し達成感が感じられるようにします。
  ⇒また、結果を良くするためにはどうすればよいか、考えるきっかけとして子どもたちに投げかけましょう。

≪この段階における社会性の形成、Q-Uの型　③≫

◆社会性の形成

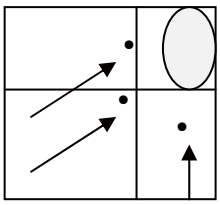
自己実現の欲求を持つようになると、「みんなのために何かしたい」という意欲や態度、困難なことがあっても目標を達成するために努力して工夫しようとする問題解決の力が養われます。

また、努力や工夫の結果、目標が達成されて「できた」という満足感を味わうと、自分たちで自分たちの問題を解決したいという「自治」への欲求が芽生えてきます。

◆Q-Uの型

子どもたちが「やった」「できた」と感じ、自己実現の欲求が満たされると、プロット図における集団のまとまりがさらに高まります（**図③**）。

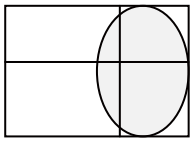
周辺部にプロットされた子どもも、集団の認め支え合う雰囲気に惹きつけられて、居心地の良さを感じるようになります。プロット図では右上方向に移動してきます。



図③　一体感が高まった右上型

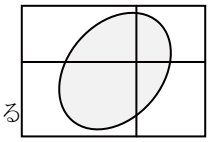
「たて型」…管理型学級
ルール（高い）リレーション（やや低い）
- 希薄な人間関係
- しらっとした活気の無い学級
- 授業や学級生活全般に対する意欲に差がある

＜対応のポイント＞
- 多様なとらえ方を提示し、認め合う場を作る
- すべての子どもが認められる場の設定



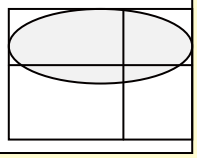
「ななめ型」…荒れ始め型学級
ルール（やや低い）リレーション（やや低い）
- 規則違反、悪ふざけやいじめが起こりやすい
- 教師への消極的な反発
- 声が大きな子の言いなりになる

＜対応のポイント＞
- 個々に合った学習指導と取組を認める
- 学年団等の組織的な対応が必要



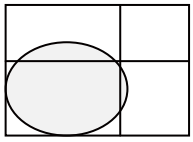
「よこ型」…なれあい型学級
ルール（やや低い）リレーション（高い）
- 自由でのびのびした雰囲気
- 授業中の私語が多い
- 子ども同士のトラブルが多い
- 係活動ができない

＜対応のポイント＞
- ルールや役割を全体で確実に確認
- ほめてルールの定着を促進



「不満足型」…崩壊型学級
ルール（低い）リレーション（低い）
- 授業が成立しない
- 教師の指示に露骨に反抗
- ターゲットを決めて攻撃する方法で、自分を守る

＜対応のポイント＞
- 組織で統一した取組
- 保護者会を開いて説明



参考　「学級づくりのための　Q-U入門」河村茂雄著（２００６）図書文化社